

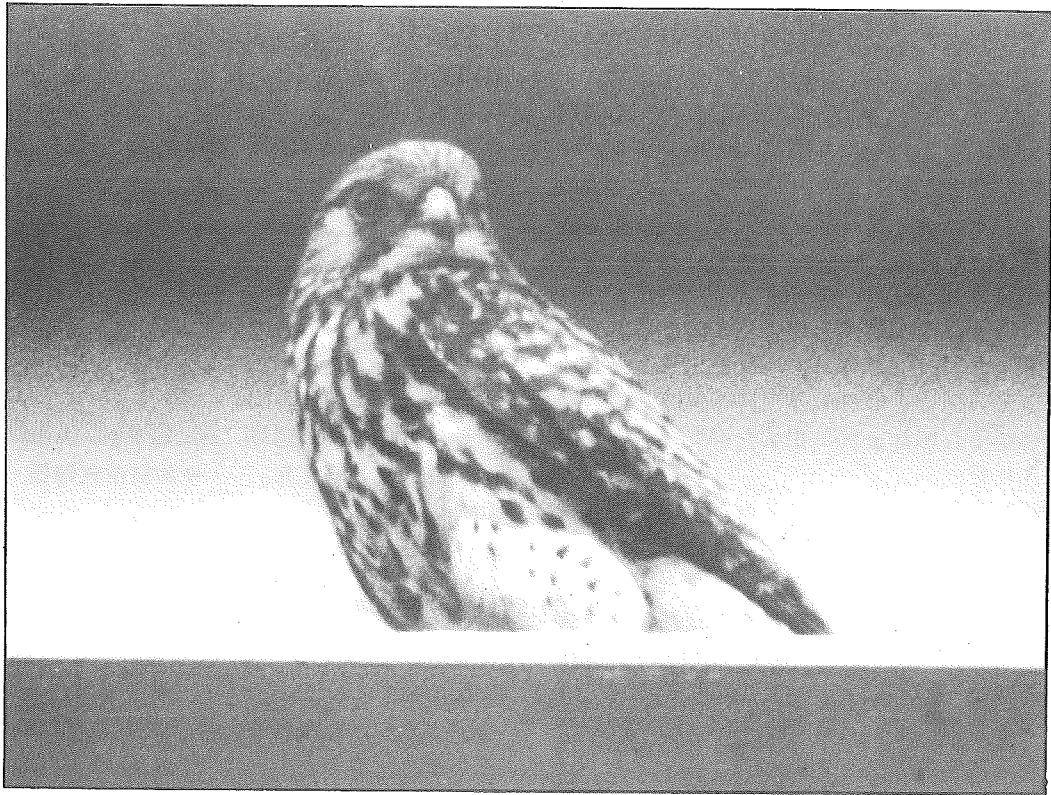


1986・7

第 26 号

しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



チョウゲンボウ（ハヤブサ科） 中学生会員の福井亘君から、チョウゲンボウが繁殖しているようだと連絡があり、5月18日三室の探鳥会の後、調査に出かけた。その日の内に建造物を利用した巣穴と、繁殖の事実を確認する事ができた。最近全国的に都市建造物への営巣が目立ち始めているが、県内での確認は初めてだ。それから6月9日4羽の若鳥が無事巣立つまで、福井君の根気強い観察が続けられた。遠くまで餌を探しに行くのは雄の役目で、雌は巣の近くを離れずヒナを守っていた=写真=という。
(写真と文・海老原美夫)

活発に支部総会



6月8日、良く晴れた日曜日の午後、熊谷市内の埼玉県熊谷福祉センターで昭和61年度総会が開かれた。

午前中の大麻生探鳥会から引続いて出席した会員も多く、山部直喜氏の司会で定刻の午後1時半、塚本洋三本部常務理事の記念講演から始まった。なんと標準レンズで写したワライカワセミなど約200枚のスライドを堪能した講演の後、支部長や来賓としての塚本氏のあいさつがあり、議長に森本國夫氏を選出、書記に今井明巨氏、議事録署名人に長谷きみ子、小淵健二の両氏を指名して議事に入った。議事の途中にも来賓の宮崎章次秩父愛鳥会会長のあいさつをはさんで活発に総会は進行し、議事はそれぞれ全員の賛成を得て原案通り可決された。

新年度役員を代表して鈴木忠雄副支部長があいさつ、最後に田村照治副支部長の閉会あいさつがあって総会は終了した。その後の懇親会は、総会の議事説明役であった海老原美夫事務局長が1年間の支部活動を写したスライドを披露したり、宮崎会長から秩父ワインの差し入れがあるなど、なごやかに楽しい宴が続けられた。

翌日塚本常務理事からの電話「特に中堅幹部の皆さんの熱意には心うたれるものがあり



塚本洋三常務理事

ました。ご苦労さまですが、これからもよろしく」

昭和60年度事業報告(要旨)

自然環境の保全に対する人々の関心が高まる中で、県支部の果すべき役割は大きい。多くの人々の協力を得て、以下の事業を進めた。

組織の整備、強化(部会制度の発足など)。探鳥会の拡大、多様化(合計67回、延べ2,432人参加、前年度比回数で49%増、参加者数で47%増)。その他の普及活動(所沢市「この鳥は何か」展、寄居町「日本野鳥展」、全国鳥獣保護行政担当者研修会の野外実習指導など)。会員数の増加とリーダー養成(会員数前年度比41%増)。他団体等との協力。サンクチュアリの推進。調査研究活動(県内野鳥分布調査、シギ・チドリ類調査など)。支部報の発行。財政関係。役員会と会員の意見。その他。



今井昌彦支部長

昭和61年度事業計画(要旨)

3年目を迎えるに当たり、私達は心をひとつに合わせて、設立当時の初心に改めて立返り、今年をまた新たな出発の年とする。1人また1人と、野鳥を愛し自然を大切に思う心をつないで行くことが最も重要であり、その基本に添った着実な歩みこそ、私達に課せられた社会的使命であると考えからである。

新会員制度の上での組織の整備、強化、探鳥会の充実、県内野鳥分布調査の継続、支部ワッペンが発売などを実施する。

昭和60年度決算額
と61年度予算額

1. 収入の部

項 目	60年度決算額	61年度予算額
繰越金	641,489	1,287,468
繰越在庫品	189,160	140,445
会 費	1,164,000	1,630,000
寄 付 金	230,226	230,000
本部補助金	200,000	0
探鳥会等参加費	124,413	150,000
指導謝礼金	175,820	180,000
雑 収 入	121,996	120,000
事業部売上金額	954,888	1,080,000
期末棚卸高	140,445	340,000
合 計	3,942,437	5,157,913

2. 支出の部

項 目	60年度決算額	61年度予算額
什器備品	41,750	160,000
事務消耗品	42,989	60,000
支部報印刷費	454,980	700,000
印刷コピー代	111,700	160,000
支部報送料	444,920	600,000
通 信 費	159,975	220,000
交際接待費	41,123	80,000
総務部費用	—	50,000
普及部費用	—	90,000
編集部費用	—	30,000
研究部費用	200,000	30,000
雑 費	118,894	80,000
事業部仕入額	698,903	1,000,000
事業部費用	10,130	30,000
期首棚卸高	189,160	140,445
予 備 費	—	700,000
繰越金	1,287,468	687,468
繰越在庫品	140,445	340,000
合 計	3,942,437	5,157,913

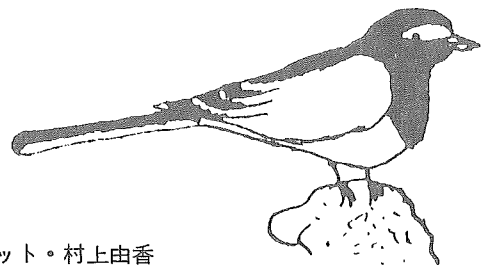
昭和61年度役員

総会とそれに続いた役員会において、次の通り選出された。(◎は新任)

- 支部長 今井 昌彦 (熊谷市本町)
 副支部長 田村 照治 (大里郡寄居町末野)
 鈴木 忠雄 (熊谷市箱田)
 ◎海老原美夫 (浦和市鹿手袋)
 幹 事 新井 清子 (大里郡寄居町寄居)
 石川 敏男 (春日部市増田新田)
 今井 明巨 (熊谷市石原)
 ◎榎本 秀和 (鴻巣市大間)
 小淵 健二 (大里郡寄居町用土)
 ◎北川 慎一 (本庄市銀座)
 ◎草間 和子 (浦和市中尾)
 ◎楠見 邦博 (浦和市三室)
 小久保隆福 (大里郡川本町瀬山)
 ◎小荷田行男 (浦和市本太)
 ◎中島 康夫 (蓮田市馬込)
 ◎西城戸 司 (浦和市領家)
 萩原 正二 (児玉郡上里町黛)
 長谷きみ子 (富士見市渡戸)
 ◎◎福井 恒人 (浦和市桜田)
 ◎藤原 寛治 (志木市柏町)
 増田 裕 (和光市新倉)
 ◎森本 國夫 (大宮市日進町)
 ◎山部 直喜 (越谷市弥十郎)
 監 事 堀越 照雄 (熊谷市石原)

同時に新たな普及部長として中島康夫幹事が選任されたが、もう1人の監事は後日あらためて選出される事となった。

前年度まで役員として活躍された石井生高、酒井邦子、長野博行、村上トシ江の4人の方は、今年はそれぞれの事情で退任という事になりました。大変ご苦労さまでした。ここにお礼申し上げます。



カット・村上由香

荒川の西

マイフィールドガイド

石井清澄（上福岡市）

バス停「治水橋堤防」からは、北に男体山や上越の山々、西は秩父、奥多摩、丹沢と連なり、富士山が絵のようにのぞまれる。

荒川には、カルガモやカイツブリが浮かび、ユリカモメが舞う。河川敷には、ホオジロ、アオジ、カシラダカ、キジが出没する。

びん沼のほとりは樹林に囲まれ、冬の終わりにはアトリやカケスをよく見かける。農道を選んで沼に近よると、タンギがジェット鳴いてとび出し、カワセミがコバルトブルーの背を見せて水面をかすめる。

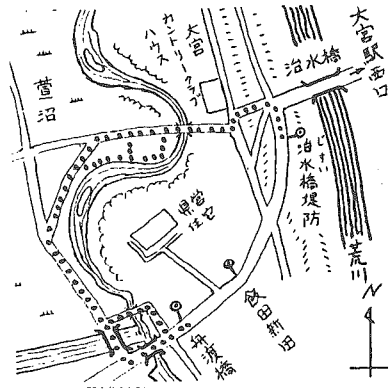
9月ごろ荒川上流に立ち昇る積乱雲をバックに旋回しているのはサンバだろうか。

枯葉舞い落ちて冬が来ると、鋤返した畑地には、ツグミ、ムクドリ、カワラヒワ、タヒバリたちが餌をあさっている。モズは、棒の先にとまってあたりをへいげいしている。鳥の貴公子タゲリもいる。

スズメやムクドリが鈴なりになっているケヤキの梢に、チョウゲンボウが何くわぬ顔で一緒にとまっていたこともある。

点在する雑木林では、オナガ、シジュウカラ、コゲラ、ビンズイ、メジロ、イカルたちが見られた。上空にノスリが2羽、優美な輪をえがいて飛んでいる。

冬晴れのある日の昼さがり、何気なく見あげた上空を黒っぽく見える大きな鳥が横切った。ジェット機のような三角の翼を斜めに見せて周囲を旋回する。ハヤブサだ。地上を走るその黒い影に仰天したムクドリは、いっせいに舞いあがりパニック状態で逃げ散る。その中にハヤブサは真逆様に突入した。はねとばされた1羽のムクドリが、ボロ布のように落ちてゆき、身をひるがえしたハヤブサがそれをつかまえ、彼方の森へ姿を消した。茫然と見送る眼の中に、真昼の畑地は何事もなかったように静まり返っていた。（交通＝大宮駅西口より上福岡駅經由の所沢駅西口行きの西武バスを利用、またはその逆）。



5月の探鳥会ありがとう

（普及部）

5月の探鳥会は、『野鳥』5月号でも紹介された様に、やがて3年目を迎える支部の心意気を表わした“SAVE THE BIRDS”探鳥会として企画実行され、会員皆様の御協力を得て、大成功をおさめることが出来ました。

探鳥会は、7回開催され、254名の参加をみる事が出来ました。開催場所もバラエティに富んで、新しい方との出会いが各地でみられ、本当にたのしい探鳥会になりました。

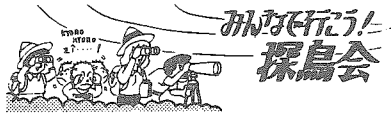
渡良瀬遊水池探鳥会では、サンバと夏羽のツルギが見られ、秋ヶ瀬探鳥会には、山と溪谷社の雑誌“アウトドア”の記者も2名参加しました。寄居町鐘撞堂山の探鳥会は、オオルリの声が若葉の中からひびいて、47名の

多くの参加者を見ました。土曜探鳥会の野崎箒川は、チョウゲンボウの巣とひなをじっくりみせてくれました。浦和三室の探鳥会は、今年も浦和市立郷土博物館との共催で行なわれることとなり、66名の参加者が、キジとカッコウに歓声をあげていました。軽井沢探鳥会は、夜行日帰りで行なわれ、夜明けの鳥のコーラスと、オオルリ、アカショウビン、キビタキなど46種の鳥に、さすが軽井沢探鳥会と全員大満足でした。

以上5月の探鳥会の様子を走り書きしましたが、このエネルギーを3年目の支部活動にぶつけたいと思いますので、普及部をお手伝いいただける方の参加を、心よりお待ちしております。

野鳥情報

- カッコウ ◇ 5月8日、熊谷市大麻生の森で（山口 博）。◇ 5月11日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で（香川裕之）。◇ 5月18日、北本市石戸宿で（田中智恵子）。◇ 5月21日、日高町の高麗神社で（水村 実）。◇ 5月22日、浦和市別所で（海老原教子）。◇ 5月25日、寄居町の玉淀川原で（吉野由紀夫、岡林克信）。
- ツツドリ ◇ 4月17日、鴻巣市大間の自宅近くで（榎本みち子）。◇ 5月4日、鳩山町熊井で（水村 実）。◇ 5月11日、北本市石戸宿で（山部直喜）。◇ 5月11日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で（香川裕之）。
- ホトトギス ◇ 4月24日、毛呂山町市場地区で（水村 実）。◇ 4月26日、大井町鶴ヶ岡八幡宮で（石井清澄）。◇ 5月22日、浦和市秋ヶ瀬で（浦和市のKさん）。
- オオタカ ◇ 4月24日、北本市の石戸宿で1羽（遠藤修司）。
- アオバズク ◇ 4月26日、熊谷市の高城神社で1羽（今井明巨）。◇ 5月2日、北本市で1羽（田中智恵子）。◇ 5月6日、浦和市三室の芝原で1羽（大武百合子）。◇ 5月15日、浦和市のつきのみや神社で2羽（海老原美夫）。
- ニュウナイスズメ ◇ 4月27日、熊谷市の大麻生の森で♂3羽♀5羽（今井明巨）。
- センダイムシクイ ◇ 4月27日、熊谷市大麻生の森で（今井明巨）。◇ 4月29日、鴻巣市大間で（榎本秀和）。◇ 5月14日、浦和市岸町のつきのみや神社で（海老原美夫）。
- オオヨシキリ ◇ 4月27日、鴻巣市大間で数羽（榎本秀和）。◇ 4月27日、浦和市大谷口の遊水池でさえざる（近藤 崇）。
- ツミ ◇ 5月2日、日高町で2羽（水村 実）。
- キビタキ ◇ 5月3日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽（吉野由紀夫）。◇ 5月10日、大宮市日進町で♂1羽（森本國夫）。◇ 5月11日、北本市石戸宿で♂1羽（山部直喜）。◇ 5月22日、鳩山町で♂1羽（水村 実）。
- アリスイ ◇ 5月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽（吉野由紀夫、岡林克信）。
- オオルリ ◇ 5月3日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽（岡林克信）。
- アカショウビン ◇ 5月4日、秩父市栃谷で2羽（西田賢治）。◇ 5月4日、秩父市の影森で1羽（山岸昭治）。
- カンムリカイツブリ ◇ 5月5日、浦和市秋ヶ瀬の荒川で1羽（福井 亘）。
- サシバ ◇ 5月5日、北本市石戸宿で2羽（田中智恵子）。◇ 5月13日、毛呂山町西大久保で1羽（水村 実）。◇ 5月23日、鳩山町赤沼で1羽（水村 実）。
- ムギマキ ◇ 5月6日、秩父市の羊山公園で♂1羽（山岸昭治）。
- ササゴイ ◇ 5月8日、浦和市見沼田圃の上空を5羽（大武昭雄）。
- エゾムシクイ ◇ 5月10日、大宮市日進町でさえざる（森本國夫）。
- サンコウチョウ ◇ 5月11日、北本市石戸宿でさえざる（山部直喜）。
- アカハラ ◇ 5月11日、大宮市日進町で3羽（森本國夫）。
- ハチクマ ◇ 5月11日、北本市石戸宿で1羽（長野博行）。◇ 5月23日、鳩山町大豆戸で1羽（水村 実）。
- コアジサシ ◇ 5月13日、浦和市の白幡沼で2羽（海老原美夫）。
- タマシギ ◇ 5月13日、桶川市川田谷の江川下流で♂2羽♀1羽（長野博行）。
- ヤマガラ ◇ 5月14日～17日、浦和市中尾でさえざる（草間和子）。◇ 5月28日、大滝村の自宅庭の巣箱に営巢中（原田秀雄）。
- メボソムシクイ ◇ 5月18日、浦和市岸町のつきのみや神社でさえざる（海老原美夫）。
- アカエリヒレアシシギ ◇ 5月18日、桶川市川田谷で♂♀各2羽（長野博行）。
- コマドリ ◇ 5月20日、大滝村の荒川上流でさえざる（原田秀雄）。
- ミゾゴイ ◇ 5月22日、日高町巾着田の裏の山で2羽（水村 実）。
- チゴモズ ◇ 5月23日、浦和市中尾神社で1羽（大谷口中学校野鳥研究部）。
- コメボソムシクイ ◇ 5月26日、熊谷市の熊谷高校で1羽（鈴木忠雄）。
- チョウゲンボウの繁殖 ◇ 5月～6月上旬朝霞市で確認（福井 亘）。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円

7月12日（土） 坂戸市 高麗川

— 初めての探鳥地高麗川 —

午前9時東武鉄道越生線川角駅前集合。午後1時ごろ解散。（埼京線大宮7：35発→川越7：54着、東武東上線乗換川越8：08発→坂戸8：22着、越生線乗換坂戸8：39発→川角8：47着）。坂戸市を流れる高麗川での初めての探鳥会です。オオヨシキリやセグロセキレイ、カルガモの親子などが見られ、運が良ければ、ヤマセミ、カワセミにも会えるかも。（担当＝中島康夫、楠見邦博、草間和子）

7月13日（日） 熊谷市 大麻生（定例）

— 川面に翠映える大麻生 —

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合（秩父鉄道熊谷9：09発→大麻生9：18着／秩父鉄道寄居9：12発→大麻生9：32着）。イカルチドリ、ササゴイにお目当てのカワセミ、いつも楽しみいっばいの大麻生。（担当＝鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨）

7月20日（日） 浦和市 三室地区（浦和市市立郷土博物館共催・定例）参加費無料。

— カルガモ親子にコンニチハ —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時

郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。何羽のカルガモの赤ちゃんに会えるかな。他にハクセキレイやイソソギの幼鳥もいるかな。（担当＝楠見邦博、森本國夫、福井恒人）

8月9日（土） 野鳥写真教室

午後3時～6時、浦和市立コミュニティーセンター。講師は園部浩一郎氏を予定。

8月10日（日） 熊谷市 大麻生（定例）

8月17日（日） 浦和市 三室地区（定例）

8月22日（金）～23日（土） 親子自然観察会

秩父郡両神村ふるさとキャンプ場にて、秩父愛鳥会共催で親子自然観察会を開きます。22日午前9時30分秩父鉄道三峰口駅前、または午前11時現地へ集合。23日午後3時48分三峰口発上り電車で帰る。参加費は、大人も子供も4,000円（食事3食、巣箱材料代。バス代は別）。22日の昼食は持参。親子で参加（小学校高学年以上なら個人参加も可）したい人は、埼玉県栄養専門学校は今井明巨まで申し込んでください。

8月24日（日） 千葉県 谷津干潟

関東各支部合同の探鳥会です。



№1.

三室の探鳥会では、「野鳥は自然を教えてください」を年間のテーマとし、各月ごとにテーマを設定して、鳥合わせの時に、そのテーマについて短い文を書いてもらっています。その短文を紹介します。

◇4月のテーマ『コチドリは木にとまらない』

コチドリはきっとたかいたころにとまるのがきらいなのだと思います。だから木な

どにとまらなと思います。それに川が近くにないとおちつかないから川の近くにしかいないと思います。とんでいる時はすきっとしてとんでいてもだいじょうぶだけど、そのばの高い所では目をまわしておちてしまうからだだと思います。館 貴之（浦和市）

◇5月のテーマ『三室の鳥は世界の鳥』

あの小さなコチドリやキアソギが大きな海をわたるのは信じられない。小さな鳥がわたるのに、大きなキジがわたらないのが不思議だ。鳥は世界をわたる。世界のシンボルみたい。 池田琢朗（浦和市）

探鳥会報告

5月4日(日) 浦和市 秋ヶ瀬公園

人 33人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイサギ
ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ コ
チドリ ムナグロ タカブシギ チュウシャクシギ
タシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイ
ス オオヨシキリ エゾムシクイ セッカ キビタ
キ シジュウカラ アオジ カワラヒワ スズメ
コムクドリ ムクドリ オナガ ハンボソガラス
ハンフトガラス(33種)田圃ではオオヨシキリや夏
姿のムナグロ、おまけにチュウシャクシギ。森には、
キビタキやエゾムシクイなど旅の途中の珍客と、今
年もやってきたコムクドリが。そして、Outdoor 誌
の取材も受けた。

5月5日(月、祝) 寄居町 鐘撞堂山

人 47人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ
トビ サシバ コジュケイ キジバト コゲラ ヒ
バリ ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨ
ドリ ヤブサメ ウグイス エゾムシクイ センダ
イムシクイ キビタキ エナガ シジュウカラ メ
ジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル ス
ズメ ムクドリ カケス ハンボソガラス ハンブ
トガラス(29種)ヤブサメ、キビタキ、センダイ
ムシクイが良くさえぎった。

5月10日(土) 栃木県矢板市 籌川

人 13人 天気 晴 鳥 カルガモ チョウゲン
ボウ キジ コチドリ キアシシギ イソシギ
キジバト ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキ
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ウグ
イス セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ オナ
ガ ハンボソガラス ハンフトガラス(22種)お目
当てのチョウゲンボウがネズミを取ってきて、ヒナ
に与えるところが良くみられた。

5月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 27人 天気 曇 鳥 コサギ カルガモ
コガモ コジュケイ キジ バン イカルチドリ
ムナグロ キョウジョシギ ハマシギ アオアシ
シギ クサシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ
コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ
イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツ
グミ オオヨシキリ セッカ ホオジロ アオジ
カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソ

ガラス ハンフトガラス(35種)キアシシギの群れ
が乱舞する荒川の中洲は、シギ・チドリの春の渡り
の真っ最中。キョウジョシギの赤褐色の翼がとても
美しかった。帰り道で、これまた渡りの途中のコサ
メビタキのかわいい目に皆うっとり。

5月18日(日) 浦和市 三室地区

人 66人 天気 晴 鳥 ゴイサギ コサギ
カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ コ
チドリ キアシシギ イソシギ キジバト カッコ
ウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モ
ズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジ
ロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハン
ボソガラス ハンフトガラス(26種)芝川には、キ
アシシギが訪れていた。苗木畑では、キジ♂が姿を
現わしてポーズを取ってくれ、美しい姿を柔分に楽
しめた。そして、この時期には珍しいチョウゲンボ
ウが姿を見せ、盛んにホバリングをして皆を楽しま
せてくれるおまけまでついた。

5月25日(日) 軽井沢

人 50人 天気 小雨後晴 鳥 トビ ハイタ
カ コジュケイ キジバト アオバト ジュウイチ
カウ ツツドリ ホトトギス ヨタカ アマツ
バメ アカショウビン アオゲラ アカゲラ コゲ
ラ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ビ
ンズイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ コル
リ マミジロ トラツグミ クロツグミ アカハラ
ヤブサメ ウグイス センダイムシクイ キビタキ
オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ
シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ カワラヒワ イカル カケス ハンボソガ
ラス ハンフトガラス(46種)夜行の眠気も寒さも
ふっ飛んだ。なんと、あこがれのアカショウビンが、
皆の前に姿を現わし、心行くまで観察できたのだ。
ところが、この原稿を書いている編集子は、不運に
も子供にもらった風疹のために参加できず、家でア
カショウビンになって寝込んでいたのだった。

6月1日(日) 鳩山町 赤沼林業試験地

人 74人 天気 曇 鳥 ゴイサギ コサギ
コジュケイ キジ キジバト ホトトギス コゲラ
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ メジロ
ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ
オナガ ハンボソガラス ハンフトガラス(24種)
鳩山町中央公民館との共催。豊かな自然、そして、
イカルの美声と、鳴きながら上空を飛んで行ったホ
トトギスが印象的だった。



SAVE THE BIRDS 探鳥会

4 ページでもご報告したSAVE THE BIRDS 探鳥会には、当初の予想を大巾に上まわり、合計11万2,873円の寄付金がよせられました。中でも坂戸市の中島宏さんからは500円硬貨110枚、合計5万5,000円が届けられ、その重さは手のひらにズシリと感じられました。探鳥会以外に事務局へ直接送ってこられた方も多く、実のあるバードウィークを目指したリーダーたちは、むくわれた苦勞によるこんでいます。ありがとうございます。今後も本部を中心に募金は受けられます。どうぞよろしく。

埼玉新聞の連載終了と続編の原稿募集

会員たちの文と写真による「野鳥ふれあいの旅」シリーズは、好評の内に終了しました。文と写真を寄せてくれた皆さんにお礼申し上げますが、実は秋には続編の掲載が予定されているのです。あなたの文や写真を新聞に発表してみませんか。文は600字くらいのたて書きで、写真はできればスライド、またはキャビネ版のプリント(絹目仕上げは不可)を9月30日までにお送りください。くわしい事はお問い合わせを。

大型寄付にお礼

埼玉県信用農業協同組合連合会(松本敏夫会長)から10万円、川口鋳物工業協同組合(田中博理事長)からは5万円、今年も寄付をいただきました。かわらぬご支援に心から感謝申し上げますと共に、私たちの果すべき社会的役割りに、決意を新たにしています。

本部の塚本洋三常務理事からはスライド映写機が寄贈され、総会などでさっそく活用させてもらっています。

会員数は

会費の長期滞納者を整理した結果、6月20日現在で627人となりました。

役員会の報告

5月11日(熊谷市) ①事務局と各部の報告、②総会の準備、③その他。

6月8日(熊谷市) ①支部長、副支部長、監事の選任、②次回は7月13日熊谷市で、③その他。

事務局日誌

5月8日 NHK浦和局、軽井沢探鳥会について。17日「くらしの情報」放映。

23日 東京電力(株)小川営業所から巣箱の作り方について問い合わせ。

31日 『しらこぼと』6月号袋詰め(ボランティア8人)。6月2日発送。

6月7日 チョウゲンボウの写真とメモを各新聞社へ持参。



6月に入って佐渡のトキが一羽なくなり、沖縄ではノグチゲラが、巣穴で冷たくなっているのが調査で発見されました。

悲しいニュースが続きましたが、私達鳥仲間、小さなことであっても、自然を守ることに力をあわせて行きたいと思います。5月の“SAVE THE BIRDS”ありがとうございました。(楠見邦博)

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正清)

『しらこぼと』

1986年7月号(第26号)
発行人 今井昌彦

頒価100円(会費に含まれます)
発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)